

まちづくりワークショップ 概要

日時：平成27年8月21日（金）

時間：午後6時から午後7時45分まで

場所：銚子市保健福祉センターまなびの城2階会議室

○主催者あいさつ

銚子円卓会議 杉山座長

銚子円卓会議は、まちづくり活動をするうえで、様々な課題を解決しようとする団体。銚子市に埋まっている「ヒト・モノ・コト・カネ」をたくさん発掘して有機的につなげていき、魅力と活力のある元気なまちにしていこうとする団体である。

また、地域通貨からの寄付により支援している地域づくり活動団体の取組を支援しており、本日のワークショップを通じ、団体が抱える課題や問題の解決策を探っていきたい。

世代を超えた話し合いにより、楽しく素晴らしいまちづくりをぜひとも考えていただきたい。

○銚子市長あいさつ

越川市長

70名を超える参加を嬉しく思う。杉山座長の話にもあった世代を超えて年齢を超えて銚子の未来について語り合えることは大変素晴らしい。これからの未来の物語を本日のワークショップで描いていただきたい。

○銚子市観光協会会長あいさつ

吉原会長

大勢の高校生をはじめ、多世代の参加によって、銚子の観光などをどうやって発信していけばいいか考えていきたい。まちづくりはひとつづくりであると思う。若い力を使い、高校生だけではなくみんなで銚子の魅力を発信し、まちづくりを考えていければ良いと思う。銚子の未来は皆さんにかかっているので、大いに期待している。

○講師紹介

千葉大学法政経学部 准教授 関谷昇氏（銚子円卓会議アドバイザー）

○開催趣旨説明

関谷准教授

地方創生の動きのなか、まちづくりが非常に注目されている。地方の人口減少や少子高齢化は進展しており、自治体消滅論が言われる時代にもなった。地方をどう盛り上げていくかが大きな課題である。まちづくりを活性化していくのに一番大切なのは想像力。想像力がなければ発想も生まれず、ど

	<p>ここに課題や問題があるのか見えなくなる。色々な想像力を駆使してモノを見る、ヒトを見る、将来を見ること、想像力を膨らませて考えることが、まちづくりには必要。地域づくり活動団体の活動を知り、魅力や可能性を探っていくとともに、このような活動を市民がお互いに支え合えるかどうか、まちづくりを妨げる目に見えない壁をどのように乗り越えていけるかについて様々な意見を出し合い、協力体制、応援体制を構築していきたい。</p>
--	---

○この指とまれ！プロジェクトの寄付先紹介

<p>NPO 法人 BeCOM 西田氏</p>	<p>犬吠 WAON カードには、たくさんの可能性が詰まっている。その機能を活用した取組のひとつが地域通貨「すきくるスター」であり、「すきくるスター」を地域づくり活動団体に寄付することにより、活動団体を応援することができる。現在支援している8団体（この指とまれ！プロジェクト）の活動概要と寄付金額を紹介させていただく。</p> <p>動画での紹介</p> <p>①ほうれんそうプロジェクト（千葉科学大学 学生警察支援サークル スターラビッツ：無線購入費）</p> <p>②みんなで花を植えよう！（ナルク銚子拠点くろしお：花苗木費）</p> <p>③ちよーびーをお風呂にいれてあげよう！（銚子商工会議所青年部：クリーニング費）</p> <p>④銚子マリーナエンデューロ大会（サイクリング大会）地域活性化プロジェクト（NPO 法人銚子スポーツコミュニティー：犬吠 WAON カード配布費）</p> <p>⑤海と月のグリーンマーケット in 銚子（月と海：広告宣伝費等）</p> <p>⑥銚子の海を知ろう!!感じよう!!（銚子海洋研究所：体験乗船燃料費）</p> <p>⑦郷土の太鼓でまちを元気に！（銚子はね太鼓保存会：太鼓の修繕及び購入費）</p> <p>⑧こどもたちの楽しめるお祭りやっぺよ！（ひびき連合会：舞台修繕費）</p>
-----------------------------	--

○地域通貨からの寄付のしくみの説明

<p>NPO 法人 BeCOM インターン生 吉川さん</p>	<p>犬吠 WAON カードの仕組み、地域通貨「すきくるスター」の仕組みについて説明。また、すきくるスターからの寄付による「この指とまれ！プロジェクト」への支援の仕組みについて説明。</p>
-------------------------------------	---

○地域づくり活動団体の活動紹介及び課題・問題の提起（トークショー形式で実施）

<p>関谷准教授</p>	<p>寄付することで色々な活動を支えていく。買い物をしてたまったポイントを寄付にまわしていく仕組みは素晴らしい。地域通貨による寄付は普通の寄付とは違い、買う人と地元の商店と支援される団体につながるができる。</p>
--------------	---

	地域づくり活動団体の方たちはどのような活動しているのか、また、どのような課題に直面しているのか、話を聞いてみたいと思う。
--	--

【有限会社銚子海洋研究所】

関谷准教授	日頃どのような思いで活動に取り組んでいるか、紹介いただきたい。
有限会社銚子海洋研究所 宮内所長	イルカ・クジラウォッチングを十数年やっているが銚子市民の乗船率は1割もない。市民にとって海は当たり前になっている。平成21年から小学生を対象に体験乗船を行っている。海から見る自分たちの銚子市の姿をもっと知ってもらいたい。しかし、東日本大震災以降、海に対する気持ちが若干変わってきているのか、乗船率があまりよくない。海の素晴らしさをまずは子どもたちに知ってもらいたい。
関谷准教授	地元住民は海に囲まれていることが当たり前で、慣れきってしまっているところがあるのではないかと。実際体験乗船を試みた子どもたちの感想はどうか。
有限会社銚子海洋研究所 宮内所長	はじめて海にでたというだけで、別世界のような感覚をもってもらえたようだ。銚子の姿を海から初めて見るのが良かったなどの感想をもらっている。大人の場合、慣れてはいるが、本当に海を知っているかは疑問を感じる。
関谷准教授	体験を通じて海をもっと知ってもらうきっかけを作っていくことが必要と考える。
有限会社銚子海洋研究所 宮内所長	これまでの間、1万時間、3千回ほど海に出ているが、まだまだ分からないことが多く、海には魅力がたくさんある。
関谷准教授	それだけ海に出ているからこそ、多くの方に海の魅力を伝えたいということだと思う。 また、活動についてどのような工夫をしているのか。
有限会社銚子海洋研究所 宮内所長	海を知るきっかけとしてまずは、磯から知ってもらうことも必要と考えている。
関谷准教授	活動資金として寄付を集めるため、どの点を今後 PR していく必要があるのか。
有限会社銚子海洋研究所 宮内所長	対外的な PR も必要だが、まずは、子どもたちが体験乗船できる環境を整えていきたい。
関谷准教授	実際ここに困っている、解決できなくて難しい思いをしているということはあるか。
銚子海洋研究所宮内さん	船の燃料費や社員（スタッフ）の人件費などの経費はかかる。今後もっと自由にやっていくためには、皆さんのチカラが必要である。銚子の未来について海を通して知ってもらいたい。

【NPO 法人銚子スポーツコミュニティー】

関谷准教授	日頃どのような思いで活動に取り組んでいるか、紹介いただきたい。
銚子スポーツコミュニティー 松本副理事長	自転車（ロードレーサー）スポーツを通じて銚子を売り込んでいきたいと考えている。地域振興につながればと思い、NPO法人を設立した。
関谷准教授	自転車ブームが起こっている今、県内でもサイクリングコースなどもある。そのなかでも銚子固有のものをどう打ち出していくかが課題であると思う。自転車の魅力をどう発信していくか。
銚子スポーツコミュニティー 松本副理事長	自転車だけでなく様々なスポーツの大会を開催することや、市民にスポーツに親しんでもらうことが目的。自転車の魅力は乗らないと分からない。
関谷准教授	大会に参加してもらう、スポーツに興味を持ってもらうことは重要であるが、その先につなげることについてどう考えるか。
銚子スポーツコミュニティー 松本副理事長	確かに大会を開催することが目的ではないが、地域がおしゃれで格好良くないと人は来てくれない。そのようなイメージを銚子市に植え付けて、お客さんに来てもらいたい。その第一弾としてスポーツ大会を開催してPRしていきたい。
関谷准教授	取組を進めているなかで市民の反応はどうか。
銚子スポーツコミュニティー 松本副理事長	銚子半島ハーフマラソンを開催して以降、君ヶ浜近辺をランニングする人も増えている。スポーツ大会を開催することでスポーツに親しむ人口が増えてくると考えている。
関谷准教授	どういう課題や問題を抱えているか。
銚子スポーツコミュニティー 松本副理事長	スポーツに興味のない人もいるが、そのような人たちに地域のための取組ということを理解してもらうことが難しく、課題である。 今回の寄付は「犬吠埼エンデューロ大会」という自転車の大会を君ヶ浜の素晴らしい景観を利用し開催するための経費として考えており、多くの方にご協力をいただきたい。

○グループ討議のための課題設定

関谷准教授	<p>このあとグループ討議に入るが、難しい課題設定はしない。銚子を海や自然などの魅力をどういう風に見せられるか、どういう風に体験できるか、どういう価値を加えられるか、どういう風に市内外に情報を発信できるかなどを考えていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうやったら寄付が増え、いろんな人に支持してもらえるのか。 ・この取り組みを今後さらに広げられるか。想像力を駆使して膨らませることができるか。 <p>以上2点をワークショップの課題に設定する。</p>
-------	--

○グループ討議

10テーブルに分かれグループ討議を実施

○発表

Bグループ	<p>「どうしたら寄付が集まるのか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広告やメディアを使って対外的にPRをしていく方法。具体的には広告やポスターを必ず目に入る高さに貼る。 ・SNSを活用し情報発信を行う。ショートムービーを作る。 ・寄付による特典を充実させる。 ・寄付をしてもらうきっかけ作りを戦略的に進める。
Dグループ	<p>「どうしたら寄付が集まるのか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら知ること。 ・共有発信⇒口コミ（比較的小さい地域で口頭等で伝える仕組み） ⇒SNS（多くの方に情報を伝える仕組み） ・情報連携⇒海の状態や観光情報を都心部で知ってもらい ⇒多言語化も効果的と考える。 ・自分たちが情報を発信することで知ってもらうきっかけとなる。
Fグループ	<p>「どうしたら寄付が集まるのか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PR発信力が必要と考える。メディアの力は大きい。SNSも有効と考える。 ・魅力をいかにして発信していくか。 ・こちょっぴー（寄付端末）をコンビニに設置する。（利便性） ・寄付した場合の特典や優待が必要（メリット） ・寄付が活かされることがわかること。寄付することが良いことであるとの認識をもってもらおう。（共感性）

○担い手団体からのコメント

有限会社銚子海洋研究所 宮内所長	<p>たくさんのアイデア、いろんなことを考えてくれて力になった。若い力はすごいと思った。寄付がどのような形で活かされているかどうか明確にし、みんなに知ってもらうことが大事だと感じた。</p>
銚子スポーツコミュニティー 松本副理事長	<p>犬吠埼エンデューロの名前が全然知られていないことを実感し、PRの大事さが分かった。また、事業への共感性が無いと寄付が集まらないということも分かった。エンデューロとはなにか、地域にどんなメリットがあるかをアピールしていくことが大事だと感じた。</p>

○講師による総括

関谷准教授	<p>短い時間で、一生懸命銚子の資源を生かしながら活動している団体がどうやったら支持されて寄付されるか、どうすればその活動が今後広がっていくかを考えてもらったが、こういう作業がまちづくりそのものである。まちづくりは始めから形が決まっているものでもなく、正しいこともない。まちづくりは、思ったことや考えたことを伝えればいい、すぐに行動すればいい。仮に方向が違っていても違う人と触れ合うことによって軌道修正され、新たなつながりもできる。性別・世代・立場・知識も関係なく持ち寄って自分なりに思ったこと、やれることを表現していくことが銚子の将来を考えるうえで大事なことである。</p>
-------	--

○閉会あいさつ

銚子信用金庫 松岡理事長	<p>銚子を元気にしようといってもそんな簡単にいかないということは分かっている。だが、厳しく考えるよりも軽やかに面白く形になることをやっていきたいと考えている。ワークショップでアイデアを出したり、世代間で話し合う場を作ることが大事。今回のアイデアや関係性は次に生きていくと思っている。そのようなことに円卓会議を生かしていきたい。</p>
-----------------	--

(写真)



【参考】発表グループ以外の内容について

Aグループ

イルカの日を創設しよう！

- ・イルカのマスコットキャラ
- ・イルカの日をつくる。(市民は半額で乗船可)
- ・寄付の具体的な使い道がわかりたい。
- ・寄付すると何がある？ 何かいいことがあれば
- ・寄付したことによりどう変わるか？みたい

Cグループ

寄付をどうやって集めるか？

- ・銚子テレビで広報
- ・駅や銀行等 人のくるところにポスターをつくる
- ・スーパーにポスター
- ・教育の中で取り組む
- ・学校で取り組み、家族と話してもらう
- ・こちよっぴーを使わないで寄付するようにする
- ・こちよっぴーの設置場所を増やす
- ・募金箱を設置する

Eグループ

宣伝力の向上

- ・回覧板
- ・すきくるスターの換金率変える？
- ・ポスターつくる
- ・加盟店を増やす
- ・ネットの活用
- ・スーパーで使えるように
- ・若者はI T 高齢者は紙での広報

Gグループ

寄付をもっと！

- ・共感をひろめる
- ・どのくらい社会の役にたつかわかるように
- ・寄付金額をみえる化する

- ・募金箱も設置
- ・寄付のお礼にスター付与
- ・端末を増やす
- ・レジで募金できる
- ・学校で地域通貨について説明する
- ・お金持ちに手紙をかく

Hグループ

犬吠埼エンデューロをもっと盛り上げよう！

PR大事 かつこいいポスター
 楽しいイメージ
 メディアコラボ
 ママちゃりOKをアピール
 部活や、企業単位での参加呼びか

Iグループ

寄付を増やす！

場面別

○イオンで

- ・専門店もスター付与して

○その他

- ・コンビニ、ガソリンスタンド、本屋さん、スーパーも！！

○学校でも

- ・高校生、大学生は、入学時に犬吠WAONカードを全員配布
 購買、食堂、自動販売機で使用
 カードの説明は必須＝大学、高校にこちよっぴー設置

＝高校生になったら君も犬吠WAONだ！君もすきくるスター！

○市役所で

- ・住民票の取得等でも
- ・施設使用でも

○地元金融機関で

- ・手数料でポイント

加盟店の看板は大きく

市民の皆さんがよく使う場所ではどこでも使えるように！！